

8.

文献収集と公開・史料 電子化・ウェブ発信

- 1) 文献・資料の収集と公開
- 2) IGS 史料電子化プロジェクト
- 3) ウェブサイトでの情報発信

1) 文献・資料の収集と公開

ジェンダー研究の知の基盤の一層の充実を図る

ジェンダー研究所は、1975 年創立の「女性文化資料館」時代から今日に至るまで 40 年以上にわたり、女性学・ジェンダー研究の文献・資料の収集を絶え間なく続けてきた。女性に関する膨大な知の集積ともいえる蔵書は、お茶の水女子大学附属図書館の専門コーナーに配架され、学内外から OPAC (Online Public Access Catalog) で検索でき、手続きを経れば学外の者も利用可能である。

2020 年度は、新型コロナ感染拡大により、図書館への立ち入りが制限されるなどの影響があったが、従来の紙媒体の文献・資料の収集に加え、電子書籍（学外からのアクセスは本学常勤教職員と本学学生に限る）の購入も積極的に進めた。また、昨年度、専門コーナーの書架から見つかった OPAC 未登録の資料について、女性文化資料館時代からの彙報などを確認し、入手時期や経緯を調べ、近隣他館に所蔵がないものなどを中心に登録を進めた。（新規収蔵図書・資料の詳細は本報告書巻末資料 147～148 頁参照）。雑誌書架においては、昨年度の図書書架に続いての見出し板設置、ファイリングなどを進めた。

■附属図書館専用書架での蔵書貸出・閲覧

ジェンダー研究所収蔵文献（書籍約 25,000 冊、雑誌約 340 種）は、お茶の水女子大学附属図書館の専門コーナーに配架され、学内外の学生や研究者に利用されている。

《図書館利用案内》

○開館日

- ・月～金 8:45～21:00 （授業のない日は 17:00 まで）
- ・土 9:00～17:00 （夏・冬・春期休業期間中は閉館）
- ・日 12:00～17:00

○閉館日

- ・日曜日、国民の祝日、年末年始、大学夏季一斉休業日
- ・夏・冬・春期休業期間中の土曜日
- ・蔵書点検
- ・徽音祭当日、創立記念日、入学試験日当日、卒業式

※新型コロナウイルス感染拡大防止の対応のため、一部利用に制限あり。最新情報は附属図書館ウェブサイト (<https://www.lib.ocha.ac.jp/>) を参照。

■蔵書・研究者に関する情報提供

附属図書館収蔵文献・資料のほかに、ジェンダー研究所内にて、購入雑誌・寄贈雑誌の最新号、研究所の過去の成果刊行物、事業の記録、所属研究者執筆の書籍のほか、全国のジェンダー研究施設や男女共同参画団体の定期刊行物を閲覧することができる。

資料閲覧対応のほか、研究者及びジェンダーに関心を持つ方々に、これらの文献や資料、研究所に蓄積された知識を広く活用してもらうため、メールや電話による外部からの問い合わせ、訪問依頼にも随時対応している。



■お茶の水女子大学デジタルアーカイブズでの資料公開

<http://archives.cf.ocha.ac.jp/>

お茶の水女子大学デジタルアーカイブズでは、本学を卒業し、女性の先駆的研究者として活躍した保井コノ、黒田チカ、湯浅年子、辻村みちよの研究業績をまとめた資料目録などが公開されている。

これらの資料は、女性文化資料館時代の 1981 年の文部省特定研究「女性高等教育とその成果に関する総合的研究」における 2 つのプロジェクト、「III 婦人研究者の活動状況に関する調査研究—自然科学分野を中心に—」「IV 女性文化に関する文献・資料の収集及び調査研究」の中で、それぞれのご遺族の協力を得て収集した遺品のうち、研究関連のものを整理し、長い時間を掛けて目録化したものである。

目録化は本研究所の前身機関のプロジェクト成果であるが、これを大学の歴史資産として広く公開するよう、2007～2009 年にデジタルアーカイブズ化された。現在、資料現物は理学部内に設置された「女性科学者資料室」で保管され、本学図書・情報課 情報基盤担当が窓口となって資料閲覧や貸出等の依頼に応じている。



2) IGS 史料電子化プロジェクト

■2020 年度成果概要

ジェンダー研究所は 2017 年度に、「IGS 史料電子化プロジェクト」を始動した。ジェンダー研究所の前身であるジェンダー研究センター（1996 年設立）、女性文化研究センター（1986 年設立）、女性文化資料館（1975 年設立）において、先人たちが開催してきた様々な研究会やセミナー、国際シンポジウムの史料を電子化し、デジタルアーカイブのかたちで後世に残すことで、ジェンダー研究のさらなる発展に寄与することを目指すプロジェクトである。

4 年目を迎えた 2020 年度は、在宅勤務を交えての作業となった。音声データの電子化、実施イベント記録一覧（本報告書 149～153 頁参照）の整備などを進めると同時に、本プロジェクトの経緯などを記録として資料にまとめる作業も進めた。来年度（2021 年度）は、これまで蓄積した電子化済みファイルをイベントごとに整理し、まずは限定的にはあるが、参照できる環境に整えていく予定である。

3) ウェブサイト等での情報発信

パンデミック下でのウェブ情報発信の重要性の再認識

2020 年度は、ウェブサイトなどインターネット上での情報発信が益々重要になったことを実感した一年であった。例えば、新型コロナウイルス感染症対策として、シンポジウムやセミナーなどのイベントがオンラインになったことと並行して、それらの広報も、前年度までのポスター・チラシを発送する形を中止し、ウェブサイトや SNS、メーリングリストが中心となった。このような広報対応については滞りなく進められた。また、ノルウェー科学技術大学との国際共同プロジェクト INTPART の特設サイト（日本語版・英語版）の新設で、ウェブサイトの拡充を図ることもできた。

しかしながら、以前より課題となっていたウェブサイト全体の情報整理と英語発信の強化については、進捗が滞ったことは否めない。これもまた感染症対策の影響によるものであり、大学授業のオンライン化により教員の仕事量が増加したことや、大学閉鎖などで事務方も在宅勤務への切り替えが必須となったが、その環境での業務遂行体制を整えるのに時間を要したことが、原因として挙げられる。

そうした中でも、現在公開されている内容の見直しと、改善に向けた作業手順の検討を進めることができた。2021 年度には、2020 年度中の検討に基づいた改訂作業を迅速に進め、さらなる情報発信の拡充を図ることができよう。

IGS ウェブサイト（日本語）



<https://www2.igs.ocha.ac.jp/>

INTPART プロジェクトウェブサイト（日本語）



<https://intpart-igs.info/>